

ほけんだより



平成22年12月22日
鳴門市第二中学校
保健室
冬休み号

予防接種をうけましょう

中学1年生

麻しん(はしか)・風しん

麻しんは、ウイルスによって引き起こされる感染症で、発熱や咳、鼻水などの風邪のような症状と発疹が現れます。肺炎や脳炎といった重い合併症を発症することもあります。とともつりやすく、免疫がないと大人もかかります。風しんも、発熱と全身に淡い発疹がでる感染症です。症状は、麻しんより軽いですが、妊婦さんが妊娠初期にかかる、おなかの中の赤ちゃんが感染し、心臓の病気になったり、目や耳に障がいを生じたりすることがあります。

麻しん・風しんの予防は、予防接種を受けることです！

現在は、麻しん・風しんの両方を予防する『混合ワクチン』があります。



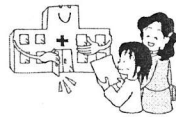
通常1万円から2万円程度の費用がかかる、麻しん・風しんの予防接種が、中学1年生の1年間(平成23年3月31日まで)に限り、無料となります。まだ受けていない人は、冬休み中に受けておいてください。

特に3年生は、受験をひかえているので、接種しておきましょう

インフルエンザ

平成22年度は新型インフルエンザと季節性インフルエンザの両方に対して効果のある混合ワクチンの接種となります。

- 実施期間 平成22年10月1日～平成23年3月31日まで
- 接種回数 13歳未満は2回、13歳以上は1回
- 費用 1回目3600円 2回目2000円
(1回目と異なる医療機関で接種の場合は3600円)



予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、効果が持続するのは約5ヶ月とされています。早めに済ませておきましょう。

予防接種の副反応

ワクチンの種類によっても異なりますが、発熱・接種局所の発赤・腫脹(はれ)・しこり・発疹などが比較的高い頻度(数%～数十%)で認められます。通常、数日以内に自然に治るので心配はありません。しかし予防接種を受けたあと、接種局所のひどい腫れ・高熱・ひきつけなどの症状がある場合は、医師の診察を受けてください。

鳴門市では、中学3年相当の女子に加えて、来年1月から中学1、2年相当の女子を対象にワクチン接種が行われます。

子宮頸がん

若い世代で子宮頸がんが急増しています

○子宮頸がんが20～30代の女性で急増しています。
○20～30代においては、子宮頸がんは乳がんよりも発症率の高いがんです。

子宮頸がんは発がん性HPVの感染が原因です

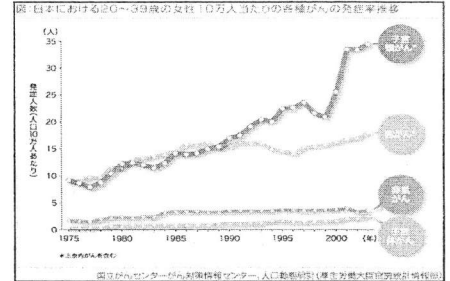
- 発がん性HPV(ヒトパピローマウイルス)は、多くの女性が一生のうちには一度は感染するウイルスです。
- 感染してもほとんどの場合、自然に排除されていきますが、排除されずに感染が長引いた場合、子宮頸がんを発症することがあります。
- 発がん性HPVには15種類ほどのタイプがあり、その中でもHPV16型、18型は子宮頸がんから多く見つかるタイプです。

発がん性HPVの感染を防ぐワクチンがあります

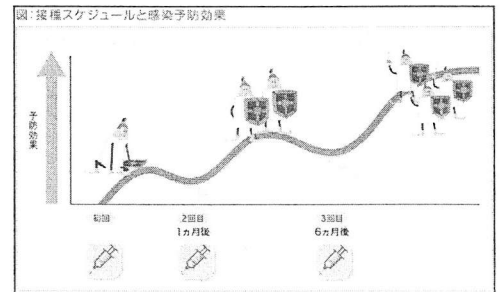
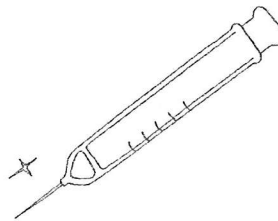
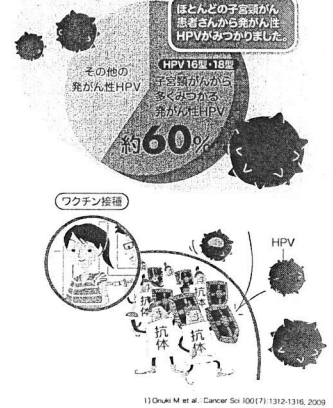
- 子宮頸がんを予防ワクチンは、特に子宮頸がんから多く見つかるHPV16型、18型の2つのタイプの発がん性HPVの感染を防ぐことができます。
- 接種時に、発がん性HPVに感染している人に対して、感染しているウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんを治療することはできません。

発がん性HPV16型、18型に感染する前にワクチンを接種すると効果的です

- 子宮頸がんの発症は20代以降に多いですが、発がん性HPVに感染してから発症まで数年～十数年かかります。
- 発がん性HPVに感染する前の10代前半に子宮頸がん予防ワクチンを接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。



日本人子宮頸がん患者からみつかる発がん性HPV



予防ワクチンの接種と定期的な検診で、子宮頸がんはほぼ100%予防できます！

予防接種に関して、ご不明なことがありましたら、鳴門市健康づくり課(684-1206)までお問い合わせください。